

医療福祉の地域創造会議 通信 第132号



第126回ワーキンググループ会議 (R6.12.19)

(R7.1.7)

「みんなで考えよう！地域の困りごと」

●話題提供者

関西鍼灸院／ハート&アシスト

はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師 平木 愛 さん

訪問鍼灸・マッサージ治療で患者さん宅に行くと、身体だけでなく様々な困りごとを聴く機会がある！

＊よく聴いた日常の悩み＊

- ・買い物に行きたいけど、ひとりで行くことができない
- ・服に気を使えなくなって、外に出る機会が減った
- ・食べられるものが減ってきた
- ・誰とも話さない日がある
- ・選挙に行くことができない など



様々な悩みを受け止める中で、実際に困りごとを体験されている当事者の方の中にヒントやアイデアがあるのでは！！すべてを実現できなくても少しずつ形にしていきたい！！

～認知症の母親がいる方からの相談～

ブラウスのボタンをちぎってしまい、もしかしたら口に入れてしまうかも…。服の着脱も嫌がるが増えてきた…。脱ぎ着しやすく、お母さんに似合いそうな、ボタンではない服はないだろうか…。探してほしい！

⇒市販のチャック式の服を着せてみたが、「お母さんらしくないなあ」の一言。いつもオシャレにされていたお母さんらしくないとのこと。

おしゃれな介護服を開発しよう！

ポイント

- ☆当事者と一緒に考え、当事者にも社会参画してもらう
- ☆ニーズを情報として発信し、必要としている方や企業に届ける



La・フック®

地域での困りごとは、見方を変えれば、明日のわたしたちが受ける可能性のあるサービスに繋がる情報がたくさんある。

地域住民と専門職と企業が直接つながるプラットフォーム作りを目指して、‘体が動けるうちに’ ‘そして未来の自分自身のためにも作ろう’ というモチベーションで活動している。

一人では難しいので、みんなで考えながら実現していきたい。



平木 愛 さん

12月のワーキンググループ会議は、鍼灸・マッサージ師である平木愛さんに訪問鍼灸・マッサージをするなかで聞く困りごとやその困りごとから生まれた取り組みについて話題提供していただきました。

グループワークでは、‘高齢独居の人が自宅で暮らしていくために自分ならこんなもの・サービスがあったらいいな’を話し合いました。



地域や個人には様々な悩みがあり、その悩みをみんなで受け止め、それをヒントに少しでも暮らしやすい地域づくりにつなげていければいいなと思いました。

【予情報】医療保険で訪問鍼灸・マッサージ治療を受けるには…「対象疾患であること」「医師の同意書が必要」が条件



◎鍼灸治療対象疾患

：神経痛、リウマチ、腰痛症、五十肩頸椎捻挫後遺症、その他これらに類似する疾患など

◎あん摩マッサージ指圧治療対象疾患

：病名によることなく、筋麻痺や関節拘縮が認められた医療上マッサージが必要とされる疾患

【参加者の声】

‘高齢独居の人が自宅で暮らしていくために自分ならこんなもの・サービスがあったらいいな’

- ・一人である時間が長いので、送迎付きのお酒を飲める場があるといいな。
- ・話せる仲間が欲しいので人とつながれる場があるといいな。
- ・マッチングアプリのようなもので人とコミュニケーションがとれるといいな。
- ・転んだ時に自動で床が持ち上がったり、壁が椅子になったり、起き上がるのを助けてくれる装置があるといいな。
- ・買い物ツアー、お出かけツアーなど自分が移動できるサービスがあるといいな。
- ・空飛ぶ車イスがあるといいな。
- ・乗り合いタクシーなど気軽に出かけられるシステムがあるといいな。
- ・散髪、レストランなど自宅に来てくれるサービスや下着の訪問販売があるといいな。
- ・一人暮らしになると、パジャマから着替えなくなったり、化粧をしなくなったりするので、スタイリストさんが自宅に来て、化粧、ネイル、服のコーディネートをしてくれるといいな。
- ・ペットシッターや近所の人が犬の散歩やペットの世話をしてくれるといいな。
- ・トイレに行きたいときに自分のコピーロボットが介助してくれるといいな。



【次回ワーキンググループ会議】

- 日時：令和7年1月23日(木) 18:30～20:00
- 場所：滋賀県庁新館7階大会議室 (Web参加可)
- テーマ：「遺品整理の現場から見える地域からの孤立の実態」
- 話題提供者：メモリーズ(株) 代表取締役 横尾 将臣 さん

医療福祉の地域創造会議 事務局

(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

Tel 077-528-3529

e-mail info@chiikisouzoukaigi-s higa.jp

